

# 道徳学習指導案

6年3組 32名 指導者 馬場智也

本授業は、以下のような視点で授業を行うものである。

- 問い直す活動において、中心発問での見方や考え方、感じ方を、友達との話し合い活動を通してひろげたり、練り深めたりすることができたか。
- 振り返る活動において、友達の感じ方や考え方と自分自身の感じ方や考え方を比べ、そのよさに気づき、互いに認め合い、高め合うことができたか。

## 1 主 題 名 社会のために尽くす（資料名「マザーテレサ」〈読み物－学研〉）

## 2 ね ら い

思いやりや、やさしさ、愛の心を理解し、社会のために尽くそうとする心情を育てる。

（4－④ 勤労，社会奉仕，公共心）

## 3 主題について

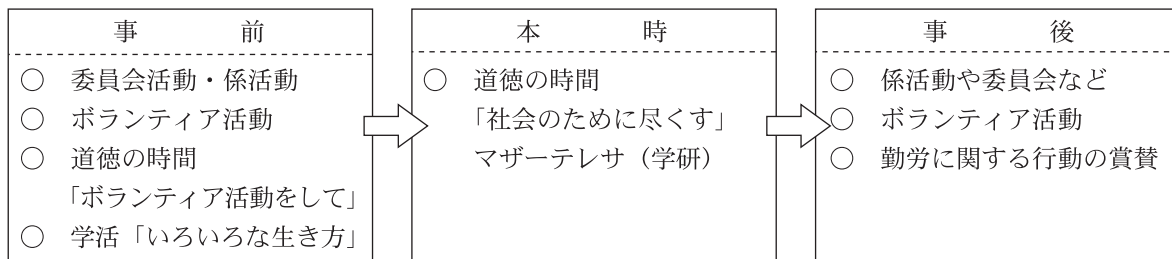
### (1) 主題の価値

本主題は、4－④「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする」で、勤労が社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役立つ活動に目を向け、積極的に取り組むことのできる児童を育てようとする内容項目である。

現在、若者の勤労意欲の低下が社会問題の1つとなっている。社会を構成する一人一人の積極的な働きによって、よりよい社会生活は支えられていく。また、勤労には大変な面もあるが、それを乗り越えたときに得られる充実感や満足感は、それを成し遂げたものにはしか味わえないものである。

最上級生となる第6学年の児童は学校生活のリーダーとして、よりよい集団や社会になるよう自分の役割や責任などについての自覚が深まっていく時期である。このような子どもたちに働くことで集団や社会の役に立つうれしさ、やりがい、自分の成長などを考えさせることを通して、勤労や社会奉仕の大切さを自覚させることは大変意義があると考えられる。また、社会は共同生活であり、共に生きる社会の一員としての心情や態度について子どもたちと共に考えていきたい。

### (2) 他教育活動との関連



### (3) 児童の実態と資料について

平成21年4月10日 調査人数32名

① 自分から進んで奉仕活動をしたことがあるか。【子どもの望ましい実践】
ある…32名      ない…0名      思い出せない…0名
② 自分から進んで奉仕活動ができなかったことがあるか。【心の弱さ】
ある…26名      ない…1名      思い出せない…5名
・あそびたかった。      ・面倒くさい。      ・他にやりたいことがあった。 ・やろうと思っていたが「やりなさい」と言われたのでやりたくなくなった。
③ 自分から進んで奉仕活動をしたときの気持ち。【道徳的価値を支える子どもたちの気持ち】
・すっきりした気持ち      ・ほめられてうれしい      ・楽しい      ・これからもやろう      ・役に立てた ・がんばってよかった
④ 自分から進んで奉仕活動をするためにはどのような気持ちが必要か。【感じ方や考え方】
・みんなの役に立ちたい      ・みんなが喜んでくれる      ・がんばろう      ・思いやり ・自分からやろうという気持ち      ・面倒くささに負けない気持ち      ・進んでやろう

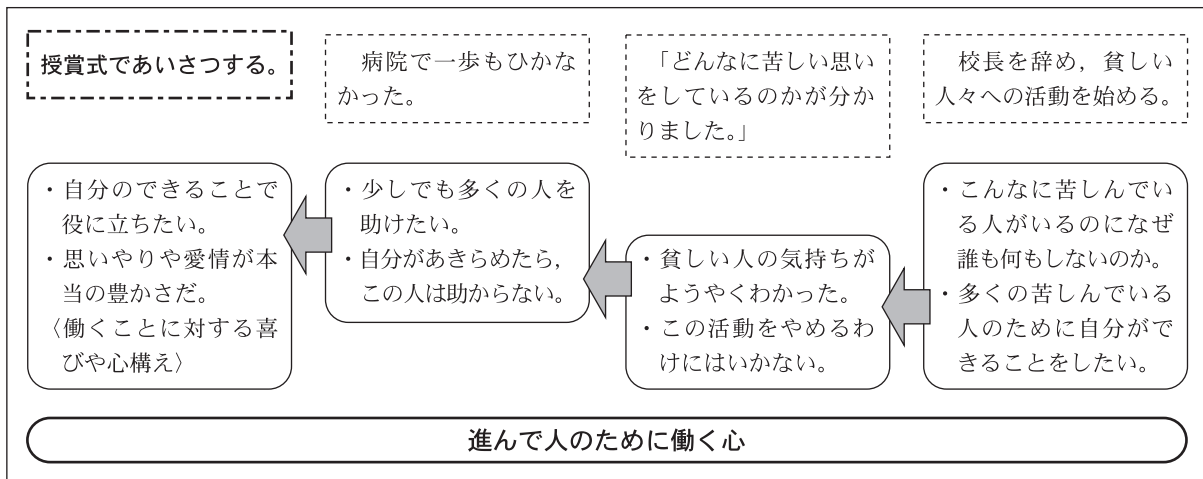
⑤ 奉仕（ボランティア）活動とはどのような活動か。	【行為に対する子どもの理解】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んで活動すること</li> <li>・みんなで協力する活動</li> <li>・人や自分のためになる活動</li> <li>・学校をきれいにする活動</li> <li>・困っている人を助ける活動</li> <li>・大変疲れる活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが仲良く暮らせる活動</li> <li>・環境保護や人を助ける活動</li> </ul>

本校では第4学年の3月から委員会活動に参加しており、働くことで多くの人に喜んでもらったり、役に立ったりする喜びを本学級のすべての子どもが味わっている。しかし、自分の都合やそのときの気分等で「働くことが大切だ」と感じていながらも、行動することができないこともある。

⑤の結果からは、奉仕（ボランティア）活動については「自分から進んでする活動」「人や自分のためになる活動」と考えている子どもがおり、活動を通して人の役に立つ喜びや自分を高める喜びを感じていることがわかる。また、「みんなが仲良く暮らせる活動」と社会全体の幸せに思いを広げている子どもがいることもわかる。一方で「大変疲れる」と活動に対する苦勞を感じている子どももおり、働くことのよさを十分に感じていないと考えられる。

そこで、本資料「マザー・テレサ」（学研）をもとに真に人々のために尽くしたテレサの生き方について考えさせることで、社会へ尽くすことの意義や素晴らしさを感じることができるようになりたい。

### 【資料分析】



## 4 展開に当たって

見つめる活動では、苦しんでいる老女を見つけた場面で自分なら何ができるかについて考えたり、マザー・テレサの生き方について話し合ったりすることで、社会のために働くためにはどのような気持ちが必要かについて問題意識をもつことができるようにする。さらに、「活用ボード」から日頃の自分たちの奉仕（ボランティア）活動に対する実態から自分から進んで働いていなかったり、働いていても社会全体を考えた行いでなかったりする姿を実振り返り、自己の課題を立てることができるようにする。その後、「進んでみんなのために働くにはどのような気持ちが必要だろう。」という共通の問題意識を練り上げていく。



問い直す活動では、追求の視点が明らかになった子どもたちに、貧しい人たちに自分のすべてをささげようと決心したテレサの気持ちについて考えさせる。

次に、「歩いて～わかりました。」と話したり、倒れている老女を病院へ連れて行き一步もひかなかったりするテレサにはどのような気持ちがあったのかを考えさせる。ここでは、各自の考えを「道徳ノート」に書かせ、それぞれの感じ方や考え方を評価する。その後、教師が意図的に指名しながら類型化して板書する。

さらにノーベル平和賞を受賞した時のテレサの気持ちを追求させながら「勤勞，社会奉仕，公共心」の価値に迫らせていく。

振り返る活動では、資料によって自己の感じ方や考え方が練り深められた子どもたちに、みんなのために奉仕（ボランティア）活動をするための心構えを考えることができるようにする。そして、「道徳ノート」に今までの体験を振り返らせながら、奉仕（ボランティア）活動をすることの大切を自覚させていく。また、交流活動を通して実践意欲を高めることができるようにする。

あたためる活動では、ボランティア活動などに取組んでいる子どもの体験や気持ちについての紹介を聞かせることで実践意欲へと結び付けられるようにする。

時	主な学習活動と教師の手立て・評価	
7	<p><b>【見つめる活動】</b></p> <p>1 資料「マザー・テレサ」の中心場面において自分ならどうするかという視点で考えたり、テレサのどのようなところが素晴らしいのかを考えたりする。</p> <p>・自分も助けたいと思うが、難しい。 ・多くの人を助けようとする行動力がすごい。 ・もらった賞も人のために使っている。</p> <p>進んでみんなのために働くにはどのような気持ちが大切だろう。</p>	<p>④ マザー・テレサ、老女の写真や絵</p> <p>マザー・テレサがどのような人だったかを想起させ、自分自身の日頃の様子や考え方と比較させることで、「マザー・テレサ」の生き方に対する感動やあこがれをもたせたり、社会のために働くためにはどのような気持ちが大切なのかという問題意識へと焦点化を行うことができるようにしたりする。</p> <p>マザー・テレサの写真や老女の絵を提示し、視覚的に訴えることで、自分自身ならどうするかという考えをもつことができるようにする。</p> 
20	<p><b>【問い直す活動】</b></p> <p>2 資料「マザー・テレサ」を読み、テレサの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) テレサはどのような気持ちで苦しんでいる人たちにすべてをささげる決心をしたのか。</p> <p>・こんなにも苦しんでいる人がいるのに、なぜ誰も救いの手を差し伸べないのか。 ・わたしがやるしかない。</p> <p>(2) なぜ病院で一步もひかなかったのか。</p> <p>ア ここであきらめてしまっただけでは、自分 イ なんとかしてもこの老女を助けたい。 ウ みんなが幸せになれる社会をつくりたい。</p> <p>(3) なぜ、テレサは授賞式で「わたしは、～お使いください」と話したのか。</p> <p>・賞をもらうためにやってきたわけではない。 ・おもいやりや愛情でつまれた社会にしたい。</p>	<p>④ ワードカード、場面絵</p> <p>テレサの貧しい人々に対する一途な思いを感じさせるために、多くの貧しい人を目の前にしたときにテレサが抱いた思いと子どもたちが抱く思いの共通点や違いを感じさせる。</p> <p>なぜこのように頑張ることができるのかを考える際、深い人間愛によるものであることを感じることができるようになる。</p> <p>※ 中心発問に対する考え方を机間指導において次の視点で評価する。</p> <p>ア 自分の気持ちを中心とした考え方 イ 他人への思いを中心とした考え方 ウ 今後の生活に活用しようとする考え方</p> <p>中心発問について「道徳ノート」に書いたことをもとに、全体で類型化し、感じ方や考え方を広げることができるようにする。</p> 
15	<p><b>【振り返る活動】</b></p> <p>・働くときの気持ちを変えたい。 ・自分がこれまでしてきたことが、社会の幸せにつながるという。</p>	<p>テレサの最後の言葉の意味を考えさせることで自己を見つめさせ、これからの生き方について考えることができるようにする。</p>
3	<p><b>【あたためる活動】</b></p> <p>4 テレサの言葉やボランティア活動を頑張っている児童を紹介する。</p> <p>・自分たちにもできる。 ・みんなの幸せのために、自分のできることから始めよう。</p>	<p>友達の考え方について自分と比べながら紹介したり、意見を述べ合ったりする活動を通して、道徳的实践意欲を高めることができるようにする。</p> <p>実際にボランティア活動などを頑張っている子どもの姿を紹介することで、他者の生き方に感動し、自己の望ましい生き方を感得し、よりよい生き方をしようとする意欲をあたためることができるようにする。</p> 